



goodroute.jp

時と道と手段。ルートは1つじゃない。

GOOD ROUTE

実施主体：国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所、岡山大学大学院環境生命科学研究科、HIDETO SATO DESIGN、日本工営(株)

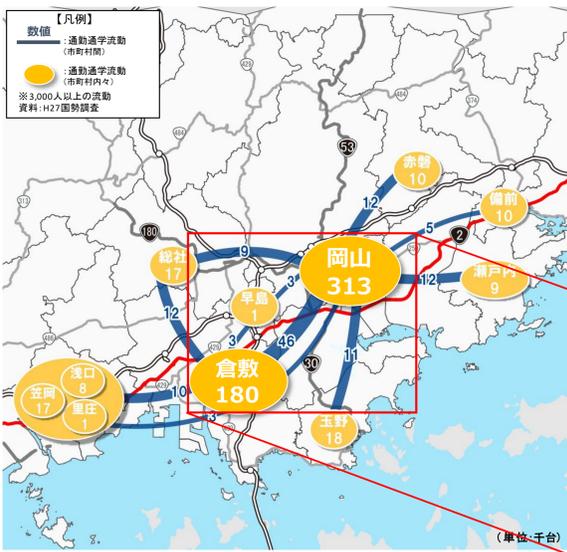
岡山倉敷都市圏におけるMM施策の「GOOD ROUTE」の2年目の取組と中長期の展望

- 要旨**
- ✓ 国道2号を中心とした通勤・通学時の渋滞緩和・環境改善等を目指し、ソフト施策を统一的に周知していくための総称「GOOD ROUTE」を活用した取組を実施した。
 - ✓ 2021年度は広報活動として、横断幕の掲出、ラジオ放送、動画作成（朝活、企業インタビュー）等を行った。また、渋滞を避けて移動していただくことを目的として、朝活に着目した取組（朝活スタイル）を実施し、取組の課題整理として、アンケート調査やアイデアソンを実施した。
 - ✓ 今後は、認知向上を図るとともに、ハード整備やソフト施策の両輪での情報発信のもと、企業や地域住民への浸透や動機付けの提供を行う。

取組の背景、MM施策の総称「GOOD ROUTE」

- 岡山都市圏を中心とした通勤通学の状況を見ると、岡山市以西との結びつきが強く、通勤・通学手段としてもクルマ（自家用車）への依存度が高いことが分かる。
- 行政区単位でも倉敷市方面と南区・北区との結びつきが強く、国道2号をはじめとした東西方向の流動が多い。

■市区町村別の通勤・通学流動（H27年国勢調査）



■岡山県内の他市区町村への通勤・通学利用交通手段割合（H22年国勢調査）



■国道2号岡山～倉敷間に関わる通勤・通学流動（H27年国勢調査）



- ソフト施策として、ノーマイカーの取組（スマート通勤おかやま）、時差通勤の呼びかけを実施しているが、各種施策の情報発信が単発で実施されており、渋滞緩和・環境改善の取組に向けた統一的な情報発信が必要である。
- そのため、2019年度に岡山倉敷都市圏のMM施策を统一的に周知していくためにMM施策の総称（ロゴマーク、キャッチコピー）である「GOOD ROUTE」を作成した。

■MM施策の総称「GOOD ROUTE」



■ホームページ作成（2020年）



■スマート通勤おかやま（2021年）



各種施策を統一的に周知するための総称を追加

「GOOD ROUTE」の2021年度の取組

- 時差出勤等の渋滞ピーク時間を避けた移動を促進する取組「朝活スタイル」を2020年度から実施している。2021年度には、(株)ドトールコーヒーとの連携、朝のクラブ活動を実施した。また、プロモーション活動として、「朝活スタイル」のロゴ、取組イメージをまとめた動画を作成した。
- 「『朝活スタイル』により『楽しく』渋滞を減らすためのアイデア出し」をテーマとして、①企業に求めること、②個人1人1人でできることについて、アイデアソンを行った。その結果、普段は日中のみ営業の施設に期間限定で早朝から営業してもらうことにより、通勤時に利用できるようにする取組や、朝早くから開いている施設を一覧マップにする取組が提案された。
- その他のプロモーション活動としては、GOOD ROUTEの取組を行っている企業の方へのインタビュー動画の作成、横断幕、デジタルサイネージ、ポスター、ラジオ放送による周知を行った。

■朝のクラブ活動（写真教室）



■朝活スタイル



■朝のクラブ活動（ノルディックウォーク教室）



【両備ホールディングス(株)と連携】



■アイデアソンの実施結果

アイデア	選択
A班のアイデア	選択：①企業に求めること、 ②個人1人1人でできること
B班のアイデア	選択：②個人1人1人でできること

「『朝活スタイル』により『楽しく』渋滞を減らすためのアイデア出し」

■動画（朝活スタイル）



■動画（インタビュー）3種



■横断幕



■ポスター（公共交通）



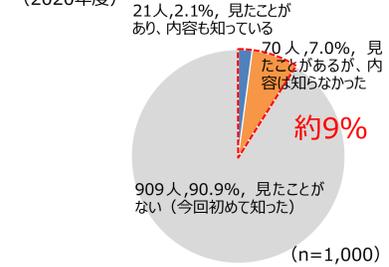
■デジタルサイネージ（岡山駅構内）



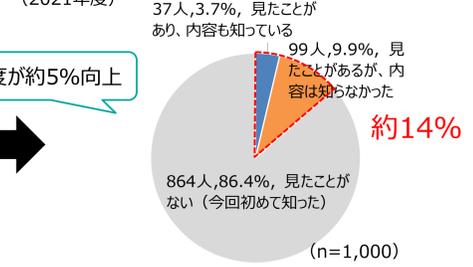
2021年度の取組結果

- 効果検証アンケートより、GOOD ROUTEの認知度の向上を把握した。なお、知ったきっかけとしては、「歩道橋の横断幕」が最も大きな効果を示した。
- 岡山倉敷都市圏にある従業員300名以上の企業を対象とした企業アンケート調査から、「時差出勤」、「在宅勤務」への協力意向は高いが、企業の就業規則等により認められていないため協力が難しい方も多数存在することがわかった。「高速道路の利用」への一定数の協力意向も把握できた。

■GOOD ROUTEの認知度（2020年度）

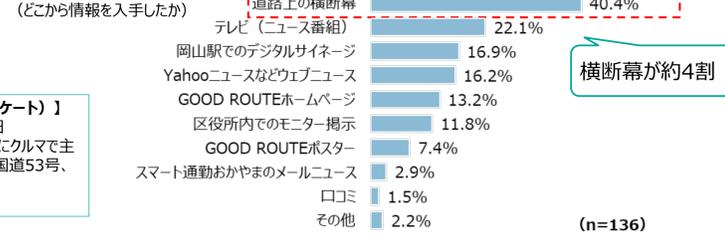


■GOOD ROUTEの認知度（2021年度）



認知度が約5%向上

■GOOD ROUTEの認知経路（どこから情報入手したか）



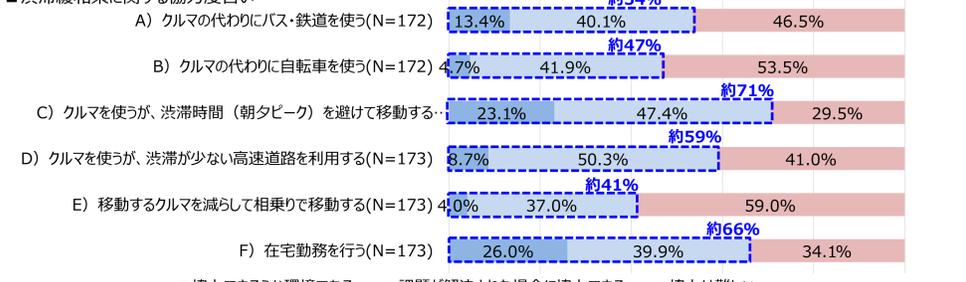
横断幕が約4割

【効果検証アンケート（WEBアンケート）】
 期間：2022年3月3日～3月9日
 対象：岡山県内在住で、通勤時にクルマで主要道路（国道2号、国道30号、国道53号、国道180号）を利用している方
 回収：1,000サンプル

今後の取組方針

- 企業訪問（時差出勤・在宅勤務等の協力依頼）、シンポジウムの実施といった民間企業への呼びかけを行う。
- 高速道路と連携した社会実験を検討する。
- 朝活の推進（朝活リストの作成、国道2号迂回路の沿道店舗との連携等）を行い、時差出勤、経路変更を促進する。
- 横断幕の掲示、民間企業へのインタビュー動画の作成等で継続的に周知活動を行う。
- 観光地の渋滞対策としてAI活用を想定した実証実験を実施する。

■渋滞緩和策に関する協力度合い



■各渋滞緩和策に対する主な課題

A) クルマの代わりにバス・鉄道を使う：	「クルマ以外の移動が難しいから（近くに公共交通がない）」
B) クルマの代わりに自転車を使う：	「クルマ以外の移動が難しいから（距離がある）」
C) クルマを使うが、渋滞時間（朝活ピーク）を避けて移動する：	「就業規則で認められていないから」「移動に関する手当の支給がないから」
D) クルマを使うが、渋滞が少ない高速道路を利用する：	「相乗りできる人がいないから」「就業時間にバラつきがないから」
E) 移動するクルマを減らして相乗りで移動する：	「在宅でできる作業ではないから」「会社以外で働ける環境がないから」
F) 在宅勤務を行う：	

企業側の協力により課題解決が可能

【企業アンケート】 期間：2021年10月27日～11月17日 対象：岡山倉敷都市圏にある従業員300名以上の企業
 回収：WEB回答(555票)、紙回答(133票)、合計688票